

経営比較分析表／団体全体（令和2年度決算）

宮崎県

【事業概要】

業務名 法適用	業種名 工業用水道事業	現在配水能力(合計)(m ³ /日) 125,000	類似団体区分 中規模	施設数 1	1日平均配水量(m ³) 61,470
資金不足比率(%) -	自己資本構成比率(%) 49.8	給水先事業所数 14	契約水量(m ³ /日) 104,344	管理者の情報 自治体職員	

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和2年度全国平均

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率
・比率は前年度より減少したが、100%以上であり、引き続き健全な状態である。
・主な減少要因は、給水量の減により経常収益が減少したことや、修繕費等の増により経常費用が増加したことである。

流動比率
・比率は100%以上であり、引き続き健全な状態である。

企業債残高対給水収益比率
・比率は前年度より減少しており、類似団体平均値と比較して低くなっている。
・主な減少要因は、償還に伴う企業債残高の減少である。

料金回収率
・回収率は前年度より減少し、100%を下回った。
・主な減少要因は、経常費用の増により給水原価が増加したことである。

施設利用率及び契約率
・いずれも類似団体平均値と比較して高くなっている。
・今後も効率的な給水に努め、ユーザーからの給水量の増量要望などに円滑に対応したい。

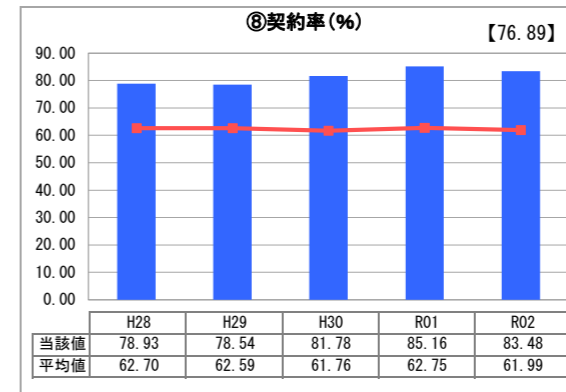
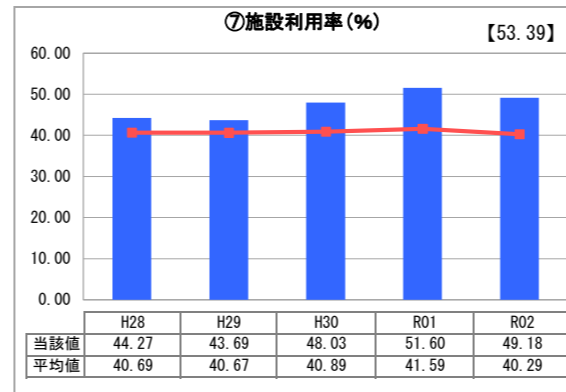
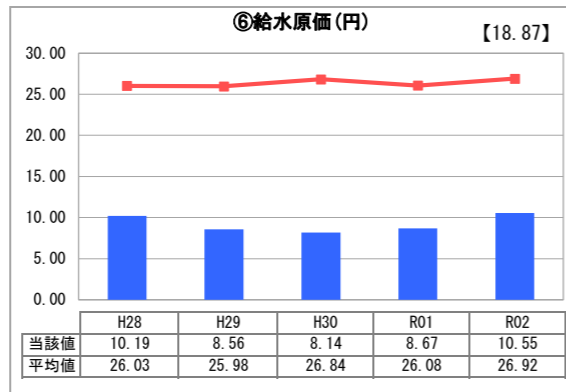
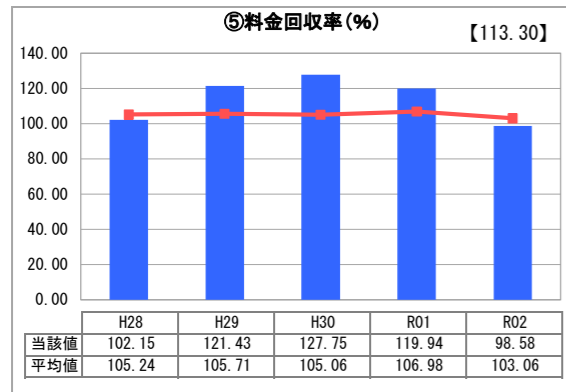
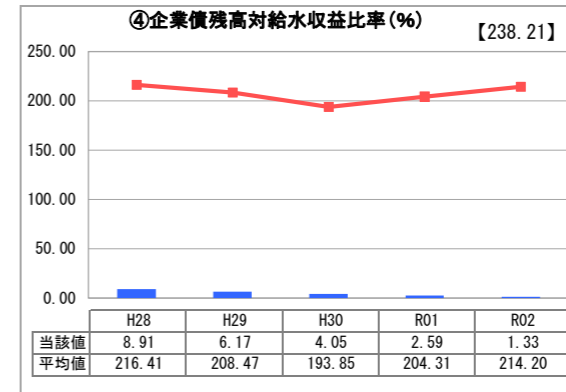
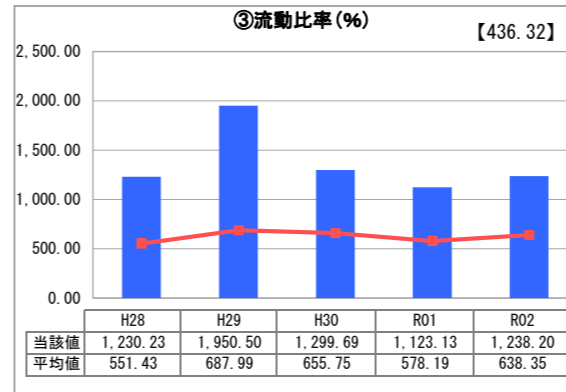
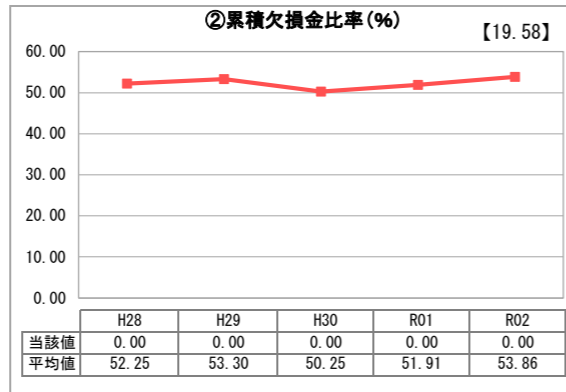
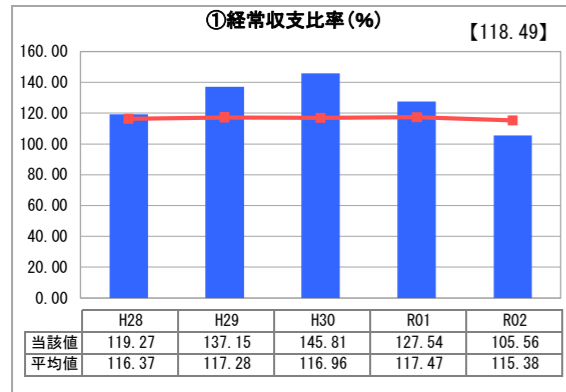
2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率及び管路経年化率
・償却率は固定資産の更新を行ったことで前年度より減少しており、類似団体平均値と比較して低くなっている。
・経年化率は直近の5年間は一定であり、類似団体平均値と比較して低くなっている。
・現在策定中のアセットマネジメント計画に基づいて、計画的な設備の更新等を行っていく。

全体総括

経常費用が増加したことなどにより、前年度より悪化した指標があるものの、経営状況は引き続き良好である。
今後、建設後相当の年数を経過した設備もあるため、設備の状況を的確に把握しながら更新等を行っていく必要がある。
令和2年3月に策定した経営戦略である「宮崎県企業局経営ビジョン」に基づく企業経営を着実に実行し、引き続き、健全経営を維持しながら、本県の産業経済の振興と住民福祉の増進を図っていく。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

